若疑シク覚候ババ
我等ノ所業終候処ヲ
爾等眼ヲ開テ看ヨ

5月20日
毎月5日20日発行
第81号
購読料 1部 80円
半年分 800円
1年分 1,600円 (郵共)

叛旗

共産主義者同盟

発行人 川崎文人
編集人 仲代真理
発行所 東京都新宿区
寺内町2—197
東京パレス空場ビル2F
大久保プロ気付
共産主義者同盟
「叛旗」編集委員会
TEL03—362—0149
郵帯 東京 162856

弁護士選任は
433—5703 庄司宏弁護士へ
救援連絡センター

カンパ、差入れ、接見等
救対関係の連絡は 赤燈社 (362) 6515 へ

5・13〜15沖縄闘争の成果をふまえ
返還から併合への全面侵攻を爆砕せよ!

全国の同志諸君!叛旗読者諸君!5・13〜5・15に寄せるわれわれの闘いは真摯さかった。だが、われわれは5・15に向う闘争を沖縄闘争の開始として宣言したし、この負荷をこの闘いの内実へ転化させなければならない。そうすることで5・13〜5・15の闘いを生かすことはなく、

5・13沖縄討論集会 ―基調提案―

神津陽

はじめに

共産主義者同盟の神津です。

本日は一般的な政治的アジテーションではなく、具体的な問題に絞りたいと思います。

また、沖縄の問題は、単に沖縄の問題だけではなく、日本の問題でもあるのだから、日本の問題としても、沖縄の問題としても、ともに、歴史的な観点からの問題を考えてみたいと思います。

まず、沖縄闘争の問題を考えるにあたって、沖縄の問題は、本土とは、ちがった歴史的な経過があるのだから、沖縄の問題を考えるにあたっては、沖縄の人たちの立場を、本土の人たちが、どのように、理解するかということが、まず、問題になってくると思います。

沖縄のなやめる民族と国家の問題を、本来、沖縄と沖縄民族の歴史的な発展の過程の問題として、考えてみる必要があると思います。

沖縄民族は、歴史的に、人類的にみても、ユニークな位置をもっているのが、その問題について、述べたいと思います。

私は、四月の中旬から、つい五月の、ひと月まで、三回にわたって沖縄に行ってきました。そこで、非常に強く感じたことは、まず、何かというと、沖縄の問題は、本土にいる我々にとっては、相対的なものであるのに、沖縄の人たちにとっては、絶対的なものであるという問題が、本土にいる我々にとっては、相対的なものであるのに、沖縄の人たちにとっては、絶対的なものであるという問題です。

また、沖縄の問題は、世界的な意味での共同性との関係で、我々がいってきたところの、相対的な問題の意味では、何かを、沖縄の人たちは、絶対的なものであるという問題です。

沖縄の問題は、人類的にみても、ユニークな位置をもっているのが、その問題について、述べたいと思います。

私は、四月の中旬から、つい五月の、ひと月まで、三回にわたって沖縄に行ってきました。そこで、非常に強く感じたことは、まず、何かというと、沖縄の問題は